

# 2022年度通常枠採択 P.O.向け研修

社会福祉法人全国盲ろう者協会

2021年度通常枠  
盲ろう者の地域団体の創業支援事業

伊藤 翔生



# 本日のテーマ

## ①盲ろう者とは

- 1盲ろう者とは
- 2当協会と友の会

## ②盲ろう者の地域団体の創業支援事業

- 1同行援護と掘り起こし

## ③実行団体とのかかわり方

- 1支援体制
- 2支援内容

## ④POとしての動き

- ・ 目と耳の両方に障害を併せもつ人

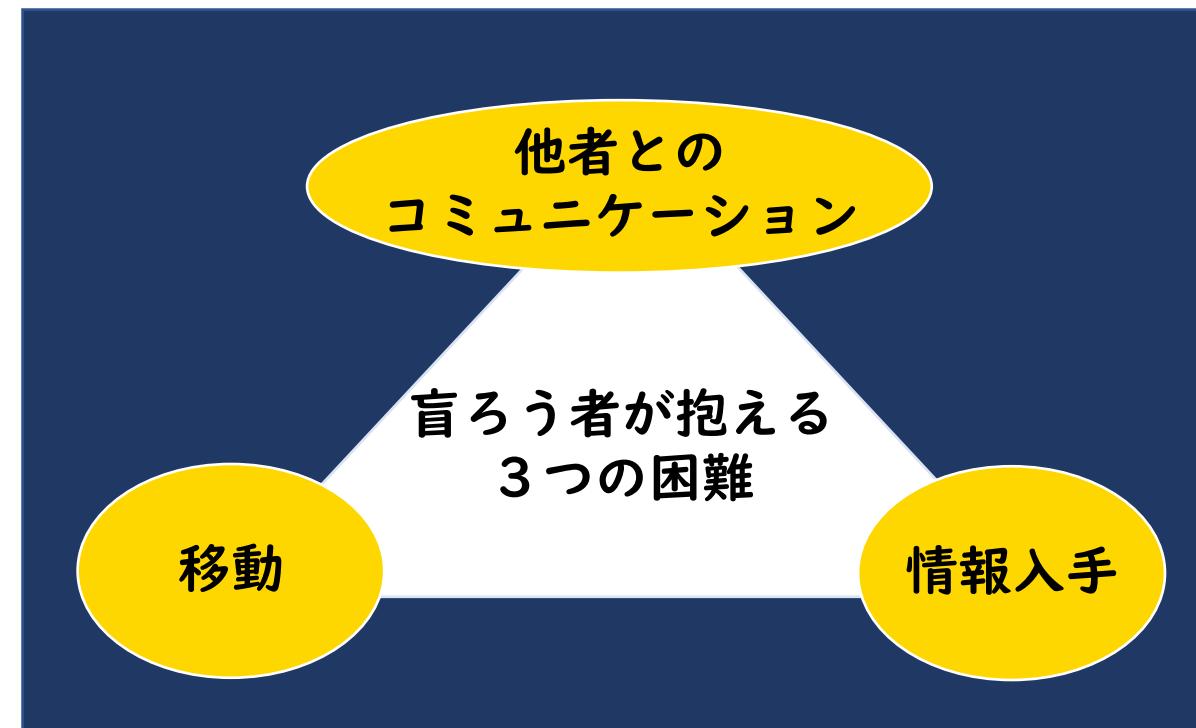
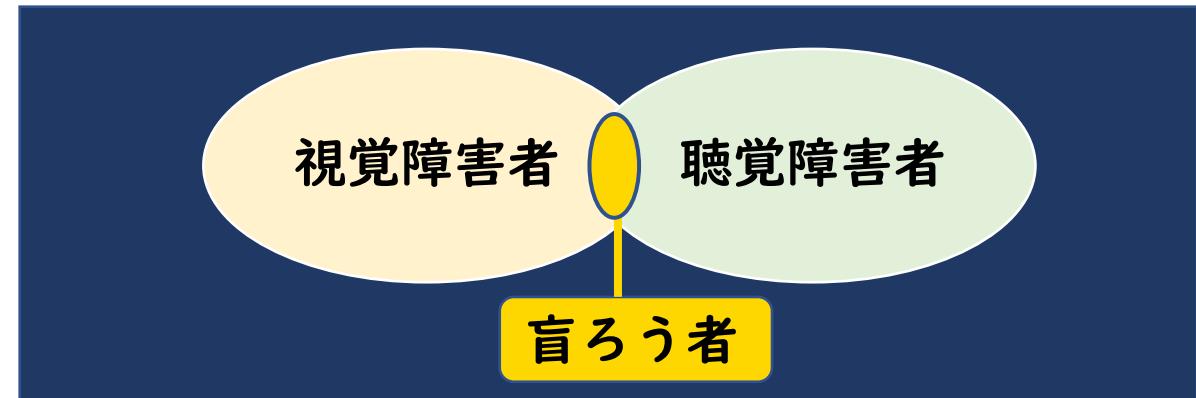
全国に約1万4000人という希少な障害  
(当協会が把握しているのは1000人ほど)

- ・ 見え方、聞こえ方は人それぞれ

先天性・後天性、全盲ろう・弱視難聴など

- ・ 多様なコミュニケーション手段

音声・触手話・指点字・手書き文字etc...



# I-2 当協会と友の会

## 全国各地の盲ろう者地域団体



- ・地域の盲ろう当事者と支援者で構成
- ・団体規模は地域により異なるが、  
**財政基盤が脆弱な**団体が多い
- ・日中活動や交流会等を行うなど、  
地域の盲ろう者の憩いの場となっている

共同して  
盲ろう福祉の向上に取り組む

## 社会福祉法人 全国盲ろう者協会



- ・1991年に設立した日本で唯一  
全国の盲ろう者を支援している団体
- ・身体障害者福祉法で定める等級の程度に  
関わらず「盲ろう者」を支援
- ・日本初の盲ろう者の総合リハビリテー  
ションセンター開設を目指し、様々な  
事業に取り組んでいる

## ②盲ろう者の地域団体の創業支援事業

### 同行援護事業所の運営

- ・視覚障害者向けの移動支援
- ・盲ろう者の外出機会増
- ・従業者(ヘルパー) の派遣により報酬
- ・団体の基盤強化

### 掘り起こし活動

- ・社会とのつながり創造
- ・同行援護の利用者
- ・行政、関係機関との連携
- ・団体の活動活性化



地域団体の活動  
活性化



## ③-1 実行団体とのかかわり方

公募結果  
実行団体5団体

- NPO法人札幌盲ろう者福祉協会
- NPO法人千葉盲ろう者友の会
- NPO法人静岡盲ろう者友の会
- NPO法人香川盲ろう者友の会
- NPO法人宮崎県盲ろう者友の会

(うち3団体は採択時任意団体)

当協会の体制

- PO2名（面談、訪問など）
- 事務局長
- 事業担当課長
- 職員1名

## ③-2 実行団体とのかかわり方

### ①（人も力もしない団体の）組織基盤強化

- ・法人化手続きの支援

社会的信用↑

「舐められなくなった」 「助成、業務委託の打診が増えた」

- ・体制の基盤づくり

- ・状況は様々

- ・ボランタリーから組織へ

### ②日常業務の支援

- ・毎月の面談(現地・オンライン) → 3~4か月に1回程度訪問

- ・日頃の問い合わせ (書類の書き方、PCの扱い、圧縮etc....)

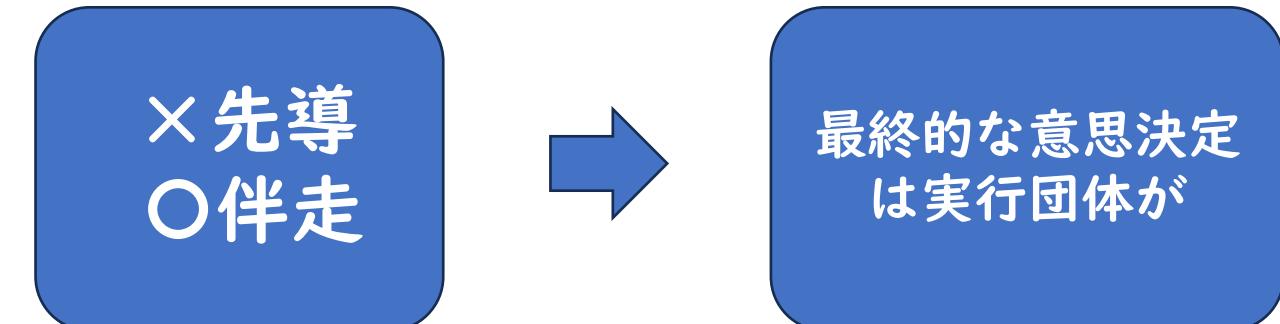
- ・事業の相談 (評価?)

### ③アドボカシー活動、他機関連携

- ・役所との交渉、折衝、啓発

- ・他機関との連携

- ・実行団体間のつながり、情報共有



# ④-I POとしての動き

氏名：伊藤翔生（いとう しょうき）

生年月日：1998年3月3日

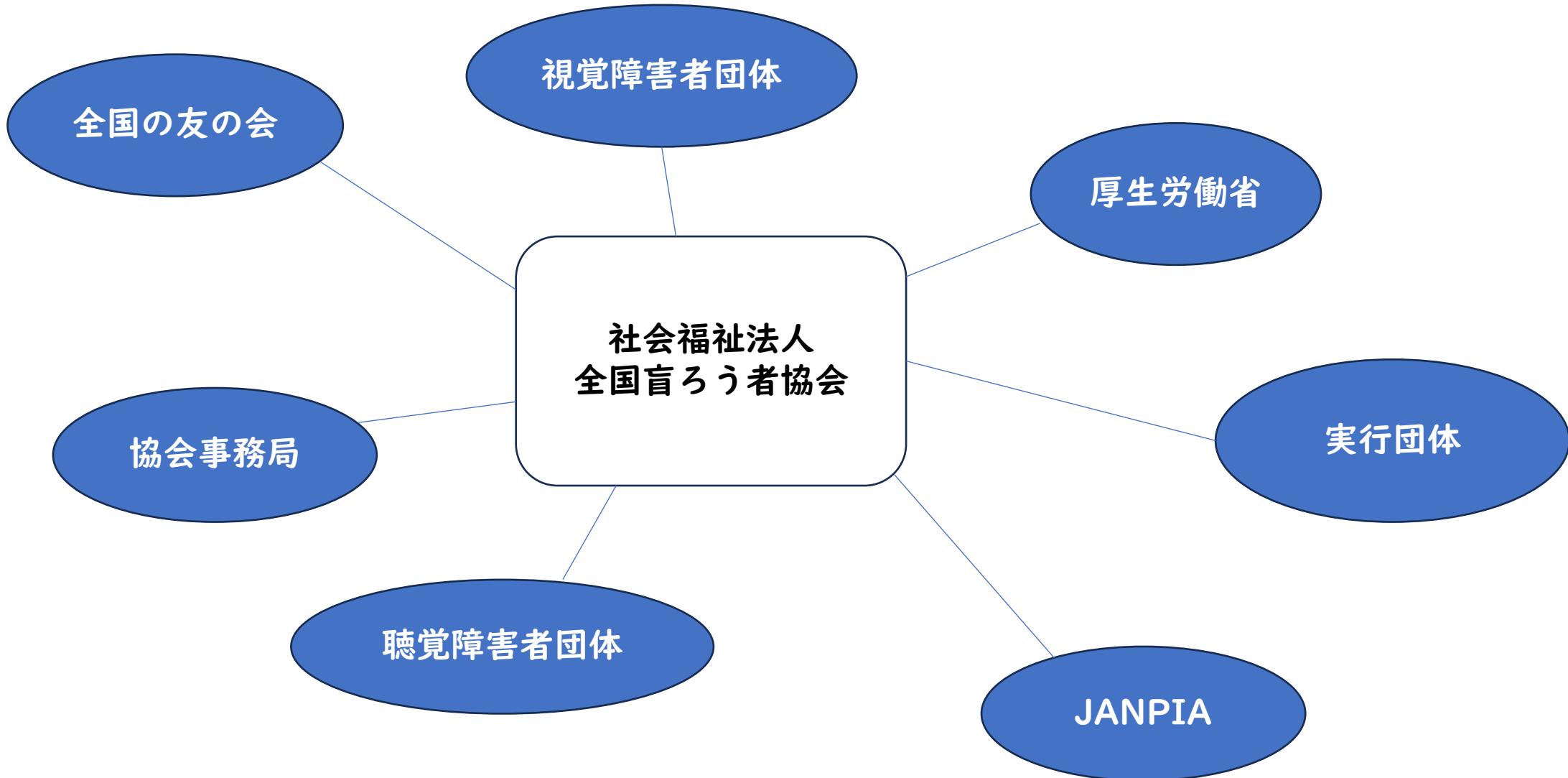
趣味：バスケ、ギター、ゲーム、引きこもること

2020年度人間科学部社会福祉学科卒業

社会福祉法人全国盲ろう者協会 入社3年目（1年目よりPO）



## ④-2 POとしての動き



# ④-3 POとしての動き

伊藤単体には強みはない

伴走支援というか伴走.....?

解決法のありか

誰が何の情報を持っているか  
人の繋がり、団体の繋がり

自由に動ける

借り物競争  
解決法のありか

個人ではなく組織として

協会内では伊藤がPO、友の会から見れば協会がPO  
橋渡し



## 1年振り返って

### 意識してよかったこと

- ・事業開始段階での共通認識  
実行団体内、資-実の共通理解
- ・評価の必要性  
事業のため→組織のため
- ・実行団体との密なコミュニケーション  
報告、進捗、愚痴など。団体の立ち位置

### やっておけばよかったこと

- ・情報の蓄積  
全実行団体の進捗比較シートなど
- ・実行団体間の交流、情報交換
- ・主担当者以外の組織体制の確認  
事業としては○  
組織としては？